THE WOMAN'S WEEKLY

第四巻第四號

大正七年一月廿五日發行 (毎週發行日金曜) 大正四年十一月四日第三種郵便物認可

目次

□無責任……小橋三四子
□時事週評……
□日米の育兒法……佐々木吉三郎
□私の受けた感化「祖父太郎左衛門翁」……山田しげ子
□食物研究「日本人の體質に適つた食品」……小田綱太郎
□傾聽すべき言葉「我が無上の快樂」……愛城生
□細民窟に讀まれる書籍……佳子
□讀者から……
□母の工夫した玩具「五色のマッチの軸」……丸山千代子
□外國語に長くる 双葉高等女學校……記者
□オハナシ「青い花の國」……宮本幾美子
□病院に見放された人……斷岳
□衛生に叶つた瀛布の拵へ方……藤井かう子
□小說「手紙」……渡邊たみ子
□一月の小說……茅野雅子
□時事……編輯室より

定價一部四錢五厘 郵稅五厘

婦人週報社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

御註文の節は婦人週報にて見たる旨御記入を乞ふ

小栗風葉先生著

■■金色夜叉以來の傑作小説■■

人の情

■■大好評忽四版出來■

◉本書は作者獨特の濃艶極りなき文彩を以て可憐な女主人が戀の爲に戀を捨て、名譽を捨て、戀人の爲に盡くす短き其の一生の哀史を描いたものである。悲しく優しく又憐れなる女主人公とそれを取卷く波瀾ある事件とは如何な無情漢も涙なくては讀まれない。淑女書報本書を評して曰く「之れは嘗て本誌に連載して大好評を博したる家庭小説で掲載當時、諸嬢諸氏から毎日のやうに、いろ／＼投書が有り、非常の喜憂を懐いて篇中人物の運命を氣づかはれたことが有りました。斯く一冊に纒つたのを見るに更に一段の興趣が湧いて涙なくては通讀する譯にゆきせん。」

▼四六版 上製頗美本
總振假名付、紙數三百餘頁
▼口繪 コロタイプ版
寫眞版 各壹葉

■定價金八拾錢
送料八錢

●最善最美の家庭悲劇小説●

母の愛

■■好評忽三版■■

▲「母樣は、母の考へを云ふて上げませう。潰れた家は又興すことも出來ます。けれども、一度被た恥は、二度と再び拭ふ事は出來ません。女の恥辱は女の道に背くといふことです自分の夫が乞食になつて、人の間に立つて物を乞へば妻も共に人の門に立つ事です。夫と恥を共にし、悲しみを共にするのが妻の道であり、そしてどんな事があつても、一旦夫と定められた人と一緒になるのが女の道です」とは道に迷ふ吾が子を敎へる母の眞の愛であつた。娘の決心と娘の運命は如何になり行つた事であらうか何人も涙なくては讀まれぬ悲劇小説。

▼四六版 洋裝頗美本
總振假名付全壹冊
▼寫眞版コロタイプ版各壹葉
挿入四百餘頁

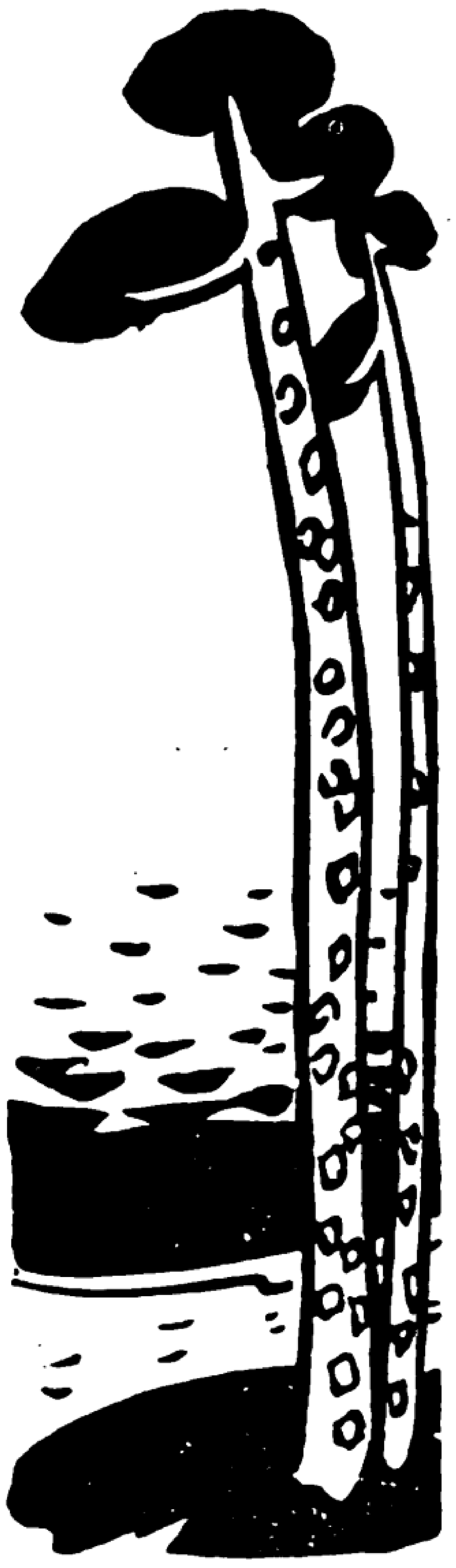
■定價金壹圓
送料八錢

發兌

東京神田美土代町一ノ四十二
振替口座東京三六一三番
電話本局五四〇九番

止善堂書店

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



無責任

寒空に捨てられて顫えつゝある小犬

口道に捨てられた小犬

さる夜校正の歸りに四ッ谷見附に乘換えの電車を待つて居ると、町家の小僧が、風呂敷包みやうのものを抱えて來て、人道と車道の境目の凹處に打捨てゝ逃ぐるが如く姿を隱して終ひました。不思議と思ふ間もなく、中から苦しげな小犬の叫びが聞えて、跪く樣子でしたが、やがて小さい犬の頭斗りがあらはれました。風呂敷を脱ぎ去らうとあせる小犬の足は無慘にも結かれてゝも居るのでせうか、狂ふやうに叫びつゝ跪いて居りますが、容易に飛び出すことが出來ませんでした。その中に二三の人がたかり、巡査は何事かと角燈を照らして來ましたが、無告の小動物は只見物さるゝのみでこれに對して何の保護も救濟も與へられずに濟んで終ひました。

口無責任な國民性の暴露

切るやうに冷たい風の中に、その夜小犬はどうしたでせうか愛犬家に拾はれたでせうか、もしくは運拙くして凍え死んだでせうか、もしくはやう／＼包みから逃れ出でゝ、どこか漂泊へ歩いて居りませうか。私は小犬の爲めに胸を痛むると共に、人の無責任を憤りました。自分の厄介なものを、適當な處置もつけずに、只目の前から遠ざければ後とは人の迷惑にならうとも、また餓死、凍死しやうとも、一向關係がないと安神して居るあさはかさは、例へやうもなく卑劣なものだと考へずには居られませんでした。しかも捨犬は、誰れも咎めもせず、怪しみもせぬ風習です。かうして寒空に顫えつゝあるあはれな小動物を見れば、人情ある者は誰れしも憐愍の情を起しませうが、これと同樣な無責任は、日常の生活上に、無形の道德上に、澤山に繰り返へされてある事で、遇々捨犬に其の國民性の一端が暴露して居ると、見るべきであります。

口 用に家畜の處置

英國では家畜の處置に就て、畜主が責任を重んじ、貰ひ手のない小犬や小猫は、一定の場所に料金をつけて送り、早く淘汰して終うと聞きます。そしてこれによつて次第に良種の家畜を得る事が出來るのであると申します。これを聞く日本の人々は必ず「そんな慘酷な事を」と申すでせうが、姑息の愛から、無責任に捨てゝ終つて、弱い小動物を長い時間にじり／＼と餓死凍死さするよりは、この方が遙かに惠みであると思はれます。幸ひに捨てられた小犬が、野良犬として育つても、これによつて犬の種類を益々惡くし、狂犬などゝなつて人に害を及ぼすものもあらうし、終には犬殺しの爲めに殺される位が其の運命であります。家畜の子の處分といふこの一事は、確かにもつと日本の社會で考へて、適當な處置を早く付けなければならぬ事であると思はれます。

口惡い手本

かういふ無責任の風習が、國

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

民教育の上に及ぼす影響も亦恐ろしいものです。小學生に責任の重んずべき事をいかに說き聞かせても、社會が惡い手本を示して居る以上は、その教育は徒勞に終る事が當然であります。それ故教師や親の指導がなければ、學校の樹木さへも保護する事がむづかしいのです。一朝自由を許さうものなら、どれ程不規律に流れ、怠惰に陥るかも分らぬ有樣であります。長じてこれ等の國民が、國家の規則や人の權利を尊重し、いかなる折にも自己の責任を完うするを矜りとなす文明の良市民たることは望んでも得られぬ事であります。

□覺醒を促す鞭撻

今後國家は國際關係の愈よ多端となるにつれて、外に向つて勢力を注がねばならぬに際しては、國民は自ら責任を負ひ、自ら歩み得る自治の國民たることが最も大切な事とならなければなりません。先づ親は心身共に健全な子供を擧げて、我が子故に社會に厄介を及ぼさぬ計りか大に世に有用の材と爲す子供となす爲めには、親自らの攝生と修養とを重んじなければなりません。なほその家族を養ひ、これを教育するに堪ゆる經濟の用意もなくてはなりません。今日のやうに低腦の兒や、不良兒をも學校にのみ一任して置けばどうにかなると考へ、もし其の子の成績が面白からねば、親は早くも學校の無能を呼ばるといふのは無責任の極であります。更らに一家の生計はもとより、子女の教育迄を「どうにかなる」主義にうか〱と生活し、もし一族に少しでも出世する者があれば、親類、緣者はこれを頼るを當然の權利かの如く心得で居るのも、凡て無責任の國民性の餘弊であります。社會に無責任の分子があれば、國家にそれだけの錆を生じてその進運を妨げ終には錆の傳播は良分子をも害つて、共倒れの恐るべく、厭ふべき結果に終ることは、瞭かであります。偶々寒風に晒されつゝ、苦しげに叫ぶ捨犬は、私共に更らに各自の責任に向つて覺醒せよと促がす鞭撻のやうに感じられます。（三四子）

時事週評

□東宮妃御內定　東宮妃殿下は別項に謹記し奉る如く、久邇宮良子女王殿下と御內定相成りたる由です。女王殿下には學德は申すに及ばず、御容姿御淑やかに、御體格優れさせ給ふ由で、天晴れ東宮妃としての御素質を具備し給へるは、有難き極みであります。願ふば今後兩宮殿下が充分の御準備、御發達を遂げさせられての曉、御成婚の盛儀を擧げさせ給ひたき一事であります。

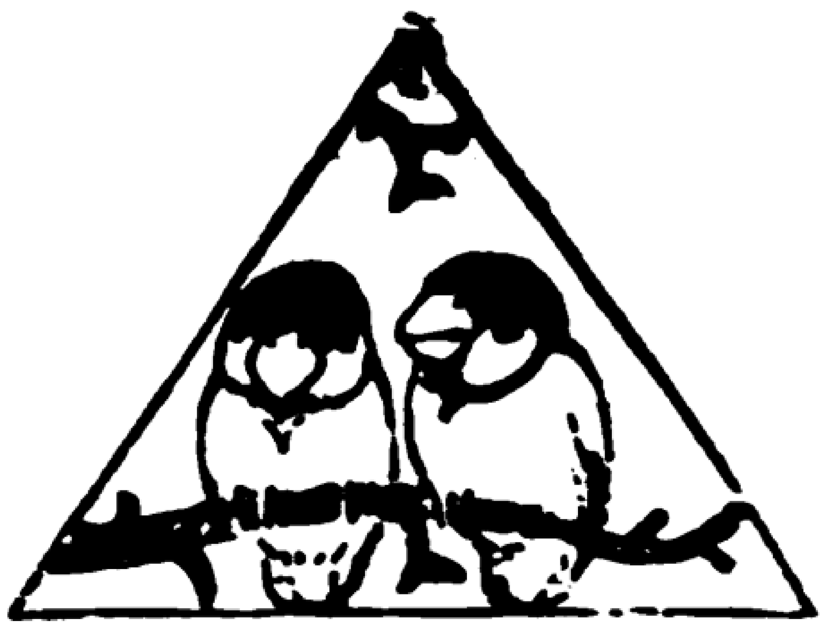
二

□噫坂元中尉　航空界に早くより身を投じて、なほ幼稚なる我が飛行術の爲め、專心其の發達を圖りたる坂元中尉は、有爲の材を早くも空中の犧牲に供するの止むなきに至りました。職に殉じた其の勇士の冥福を祈る爲めにも、一日も早く我が飛行術の革新進歩を圖りたいものであります。折柄歸朝の眞鍋、長尾兩飛行中尉に期待するものが一層多くあります。

□帝大囑託の女學者　一昨年歸朝後、默々として教務の傍ら、母校の研究室に籠りたる保井この子女史は、今回、帝國大學の囑託となり、藤井健次郎博士を助けて、細胞學の研究に從事する由です。我が婦人界から次第に深い素養ある專門家が現はれるやうになつた事は、この上ない喜ばしい現象であります。

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



日米の育兒法

兩國民性の相違も此處に其源を發す

高等師範學校附屬小學校主事　佐々木吉三郎

氏は昨年九月實業之日本社主催の小學校長渡米團の團長として米國に赴かれ、昨暮歸朝せられました。數年前には教育研究の爲、歐米を漫遊せられたこともありました。

□米國の育兒は放任主義

米國の子供の育て方は、よく申せば自由を尊重し、餘り干渉しない主義であると云へませうし、惡く云へばほつたらかしと云へぬこともない、察する處、米國人が一體に自由を尊び、自主獨立を重んずるといふ歴史的民族的の傾きもあるでせうが、一つは殖民地風と云つたやうなつまり若夫婦が或る天地に移住して來て、忙しく活動して居る場合、餘り叮嚀な子供の世話はしやうと思つても屆きかねるといふ事情から、自然に放任して置くといふ傾向を生じたことが決して尠くないと思ふ。論より證據、日本人でも米國に居る人であると、夫婦共稼ぎといふ狀態でありますから、子供に構つては居られぬ、その結果隨分亡くさんでもよい子供迄を亡くすので、幼兒の死亡率の高まつて居るのは事實であります。

□甲板上に見た兩洋の親

勿論その原因はいろ〳〵ありませうが、要するに米國の子供の育て方は、親が餘りおせつかいをしない事であります。歸朝の際天洋丸の上に、非常によい例を見ました。二歳位の子供を伴れた或る西洋婦人は、子供に大體エスキモーと云つた格恰に毛のメリヤスで作つただぶ〳〵の着物を着せ、夏蜜柑一つをデッキに持ち出し、辛うじて歩き初めた子供を遊ばして居る、船の動搖するに連れ、夏蜜柑はいろ〳〵の方向にころり〳〵と轉がると、子供はよろ〳〵と立つて追ひかけて歩く、途中で倒れても振り向きもせず、母親は安樂椅子に腰かけて編物をして居る、その子は蜜柑を相手にして匍匐つたり、歩いたり、轉んだり、自由にして居りました。

下のデッキに來て日本人がどうして居るかを見ると、嬉しがつて飛び回つて居る子供を、母親はいかにも心配さうな顔をして、疳高い聲で叱りながら、後を追ひかけ回して、非常に心配して居る。中には父親迄子供を叱つて殆ど子供を欄干の傍にもやらぬやうに骨を折つて居る。云ふ迄もなく甲板の欄干は鐵で出來て居つて子供が故意と潜つて落ちやうとしても、落ちられぬやうに目が細かくなつて居ります。

□自治の起る所以

日米の子供の育て方は、かくの如く放任主義と干渉主義と云はうか、下から上迄、この區別があり〳〵と見えます。つまり米國の子供は放任されて自由勝手にやり、だん〳〵友達が出來ると、其の通りを繼續して見て不便が起ると、互に規約を申し合せて、そこに共同的社會的の訓練を受ける事になります。從つて小學校の上級や、中學校位になると、一々先生の指圖を受けなくとも、仲間の制裁で、立派に自治が出來るやうになるのであります。從つて一つのハ

三

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

イスクールに男女の生徒が晝三千、夜三千等といふ大仕掛の學校があるが一人の校長でこれを支配するといふことも出來る道理であります。

口自主自動の精神

四

日本ではこれに反して子供の時から物事を親が危ながつて、あれをするな、これをするなと止めて、やらせないから、子供は第一經驗が乏しく、氣儘勝手をすれば、どんな不便が起ることをも知らず、從つて自治自動的に互の間の規約を作る必要も嘗て感じた事なく、只誰れかに號令をかけて貰つてお辭儀をし親や教師に命ぜられて、初めて仕事にとりつき、命ぜられて初めて止めると、こうなつて居るのであります。日本のやり方でいけば、形から入つて、内容迄貫いて、結局は前に命令でやらされた事を、後に自己の命令で自分で始末する處迄へ漕ぎ付けなければならぬ。其處迄貫徹せずに終れば、殆ど役に立たぬ人間になつて終ひます。無論自由放任といふ事も程度問題でありますが餘り入らざる處にヒステリックの干渉をやることは大に我々の謹まねばならぬ處であると思ひます。

私の受けた感化(三)

祖父太郎左衛門翁

山田しげ子夫人

▲「里はまだ夜深し富士の朝日影」―こは維新の志士、江川太郎左衛門翁が、まゝならぬ世に處して靜に伊豆の里に、富士の朝日影を仰ぎながら、洩した嘆聲であつた。其一生を國防のために盡瘁され、徳行至らざるなき沈默寡言の志士の慷慨悲憤の俤は、此句の中に彷彿さしてゐる。

▲牛込のさある閑かな町に、法學博士山田三良氏の御門を入る。すがすがしい青竹の垣根が、美しい行列を玄關先迄つゞかせ改まりたる歳の名殘を想はせる。山田博士夫人繁子様は、實に江川太郎左衛門翁の令孫に當る。言葉尻のはつきりさした、快活な方である。『祖父の事はよく皆様から聞かれますけれど、私にはちつさも覺えがないのですもの、覺えといふよりも影さへ知らないのです。祖父は次男である私の父が、三歳の時に五十五歳で亡くなつたので、噂だけは私もよく聞かされて大きくなりました。祖父も次男に生れたのでしたが、總領が亡くなつて、三十代の時に家督を相續したさうです。祖父が生涯の仕事さして大事に、國防に意を注いだ事で、砲術を深く研究致しました。

太郎左衛門翁の揮毫の富士さ句

▲折角ですから、強いて私から申上げたいのは、品川の臺場を作つたのは、全く祖父の意志で無かつたことです。常におとなしくて、居るか居ないか分らない位の人が此時許りは大きな聲を出して反對したので、傍に居た茶坊主が、吃驚したさか申します。今祖父を偲びますのは、皆祖父の手先に成つたもの許りでございます。祖父は文晁の弟子でございました。妹が嫁ぐ時に、雛の屏風と衝立に繪を書いて贈つたり繪をかいて自ら瀬戸物を焼いたり、他所から貰つた菓子箱に、漆を塗つて、私の父の手文庫を拵へて見たり、凡て非常に手の先の事をいたしました。けれども私の考では、これは祖父が器用なのではなく、大變不器用な人だつた様に思はれます。それを努力して斯様な事をした様に思はれてなりません。』

▲『私は祖父を想ふ度に、先づ祖父を育てた母が偉かつた様に存じます。祖父の幼時其母が切つてゐる爪を一心に拾ひ集めて居ました。其の譯を問ふたら母の爪を人に踏ませるのは勿體ないからださ申したさうです。とにかく幼い時から變つては居た樣ですが、小い事に迄母が氣を用ゐて育てた事を、知つてゐる老人達からよく聞かされました。』懷しい想ひ出のお話が、謙遜に夫人の唇からいつ迄もつゞくのであつた。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

食糧研究（一）

今日世界の大戰に見るも、勇敢なる軍隊も、精巧なる戰術も、到底食糧の缺乏といふ最後の致命傷には及び難いといふ事が明らかであります。今や獨逸は犬迄を食糧に供してなほ缺乏を告げて居ります。幸ひに物價騰貴位の打擊に止つて居る我が國も、今後の備への爲、食糧の研究を疎かにしてはなりません。而してこは臺所を掌る婦人に最も深い關係を持てる事であります。以下號を追ふて、諸家の實驗、研究を乞ふて、掲載し、廣く世の注意を促したいと思ひます。

日本人の體質に適つた食品

わが家の實驗數種

女子商業學校理事　小田綱太郎

口食物と心理上の作用

世の文明が進み、人々の衛生や經濟に關する智識が發達するに連れて、食物も改良進歩して行かなければならぬ事は當然である。家庭内に於ても又多人數の會食などにも、我が邦舊來の二汁三菜とか、三汁五菜とかいふ式では、到底間に合はぬ。故に勢ひ西洋料理の方が適當であるといふ處から、一般に西洋料理が廣く行はれるやうになつて來たのであるが、爰に一つ考ふべき事は、食物につきては幾年來用ひ來つた習慣と、各人其れ〳〵異なつた嗜好とがあつて、其いくらよい食物だからとても急に變更の出來るものでない。其人の好んで食べない時は心理的に作用して、其消化を充分にすることが出來ず、折角の滋養物も其人體を益する食物とはならぬのであるから、是非とも其食物につきての多年の歷史と又各人特殊の嗜好とを斟酌してよく調和を計る必要がある。

口日本料理の現代化

舊來の日本料理にも衛生嗜好の上に有益なものが多いから、あれを大食堂の宴會にも持ち出してうまく調和を計れば大によい、たとへば乾盃し萬歳を唱する時にもシャンペンに限らず日本酒の中の適當なるものを用ゐるやうにし、禁酒を奬勵する爲には葡萄液を用ふるもよく、又スープの時にも日本在來の吸物を用ゐて和洋折衷の献立とし、彼我の長を集めて、精撰した新式の食事が行はれることを希望する。それにつけても婦人方が大に研究し實驗して得られた有益なる結果を發表し、普及して欲しいものである。

口玄米湯と胡麻鹽

玄米の効能は申すまでもない、私の家では定まつたやうに一握りの玄米を湯に煮出しておきこの玄米湯をもつて米も仕立て煮つけものにも用ゐ尚茶までもさ湯を用ゐずこの玄米湯を用ゐて居る。これが非常な効を奏して家族一同まことに健康で、少しも病氣等に冒されるとはない。學校の生徒中に便秘で困しむ者があつた時、私がこの法をもつと進めたもの乃ち玄米の濃厚な湯を作つて數回飲用せしめたらば、忽ち全快した。この生徒は其後もなほこの湯を飲みつゞけて、この病氣を豫防して居る。

今一つは胡麻鹽である、私の内には年中食膳に胡麻鹽を絶や

五

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

した事はない。胡麻はあの通り脂肪に富んだ食品であるから脂肪の少い日本料理の短を補ふに餘りある。之を飯にもふりかけ又魚肉を燒く時にも之を用うれば、鹽と共に脂肪が吸收されて一層味ひを美にする。

□落花生で脂肪の補充

植物中落花生ほど脂肪に富んだものはない、それ故に脂肪の欠乏した人は之を食すればよいのであるが、これは甚だ不消化物だから食法を研究せねばならぬ。私の實驗したのは、先表皮だけを去り、うす皮は附着のまゝからい鹽水で七八分といふ位に煮る。即ち十分煮えず、生煮の程度にして、後一旦笊にあげ乾かし・然る後之に小砂利を混ぜてほうろくにてこげぬやうに煎り揚げて貯へおき、毎日すこしづゝ繼續的に食べるのであるさすれば一時に多食の害を防ぎ脂肪を補ふに足るやうになる。砂を交ぜて煎るといふのは、熱が不平均なく通つてこげぬやうにいり上る方法である。一寸見て脂肪分の欠乏したらしい人には、この食品を敎へて食せしむると、果して其の目的を達することが出來る。

□蓬餅の効能

春陽駘蕩野に青草萠え出づる時に至れば人々は蓬の若芽を摘んで柔かい蓬餅をこしらへる。これは年中行事の一つで、遠き昔の時代から今日に至るまで、ずつと行はれて居る。

蓬もちは口にうまく、芳香薫ばしきのみならず、衛生上非常の價値を有するものである。蓬といふものは、健胃驅虫劑であつて、あの若葉には最この効能を含んで居る。尚之を干し上げて其纖維は・もぐさにして用ひ其の碎けた葉は粉末として健胃の良劑となし・敦賀邊から賣藥として盛んに賣り出して居るほどである。然るにしるこ屋などで賣つて居る蓬餅は、聊の蓬で大部分青粉などを入れてあるから、たゞ青いといふのみで、蓬の効能は更にない。

□獨特のわが家の飯

私の家では半搗米七に、麥三、糯米一といふ割の飯を炊いて食べて居るが、これは實に衛生上有益なのみならず、味も非常にうまいので、來客なども賞讃して食べ又自分等が他家に招かれて食事を頂戴しても、習慣のためか一向飯の味のないやうな氣がして、折角の御馳走も賞味する手が出來ぬのは甚お氣の毒に感じて居る。

六

□小さな秘密　ローマ字ひろめ會で發行した家庭唱歌の繪はがきで、八枚一組となつて居ります。加茂正一氏の作歌した七才の少女が、只一人の姉が病氣で落葉の堆く庭に積る頃には亡くなるとの醫師の言葉を洩れ聞いて、一心に落葉を拾ふといふ筋の歌を、加茂かなる氏が作曲し、藤原律太氏が好もしい挿繪を書いて居ります。ローマ字を辿つて一枚歌へば、次々の續きが讀みたくなる面白い趣向であります。（定價十五錢東京丸の内ローマ字ひろめ會）

傾聽す可き言葉（九）

愛城生

我が無上の快樂

地上一面雪を以て蔽はるゝ無味なる冬の眞中にも遠く人里離れた淋しい曠原や林や森へ踏み入りて、親しく自然に接觸する事程ご我が心を晴朗にし、且つ慰安を與ふるものは無い。此く遠く人家を離れた寂寞なる自然界に接觸するに至りて、初めて自分は已が本性に立戻つた心地となり、初めて自分は實に一人間として低からず、淺からず、小ならざる、崇高なる運命を抱いて、現世に出生した事を自覺する事が出來る。衆人が自己の心を養ひ、心の糧を得んが爲めに敎會又は祈禱の會へ集ふと同一の目的を以て、自分は人家を離れた遠く、淋しき森林や曠野へ行かん事を熱望して止まぬ。而して自分は我が町なるコンコードも、又た己が一亞米利加人であると云ふが如き、極小なる思想を一時全く心から除き得て、寸時でも純然たる大なる眞人間として有つ可き、健全なる心を有する事を得ん事を欲するのである。

デビツド、トロー

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

細民窟に
讀まれる書籍
中には「源氏物語」を望むお神さんもある

＊＊

女子大學櫻楓會の仕事に成る托兒所は、今や世間的にかなりの成功と、好結果とをもたらしてゐる。かしこくも先帝葬場殿の一部分を下賜されて作つた巣鴨宮仲のかたほとりに立つてゐる建物の中には、降つても照つても、數十人の子供等が影を絶たない。其の親は工場に其の兄は田園の仕事場に、日毎の生計にいそしむのであらう。單に足手纏ひを預かるのみならず、托兒所の副業としては、どうしてもあの暗い家に生ひ立つた、行く先の長い娘達に、料理なり裁縫なりを教へてやる獨學の樣なものを拵へなければならない。それには、彼等の通つて居る工場の主と結託して、特別に夜業を廢して貰はなければならない何しろ此邊は道が邊鄙で、若い人達の通行には不便ですけれど：と云つた樣な心配を、係の人は互に話し合つて居た。

＊＊

此托兒所で正月の元日以來してゐる一つの仕事がある。それは、他から寄附された餅があつたので、小豆餅をして小供の親達を招待した。親達はこよない正　月の福音を欣びつゝ、寄り集ふたのである。正月はいくら彼等でも暇な月である。そこで諸方から寄附された、數百の圖書や雜誌を、彼等の思ふがまゝに、貸し出す事にした。此日此時、彼等の欣びはいか許りであつたらう、『先生おかげ樣で活動寫眞へ行く必要も無くなりました』若い者はかう云つて喜んだ三井家や西園寺家、女子大學等諸方面から集つた圖書である。中にはオイケンやベルグソンの哲學書などが顏を見せてゐるのもをかしい。

＊＊

さて一番よく出るのは義士銘々傳、其他の講談本が勢力ありつゞいて落語、小公子、噫無情八犬傳は二度でも三度でも讀みたいといふ人がある。渡邊華山の傳記、わんぱく小僧のおどけもの、勇ましい亂彈下、雜誌では婦人の友や文藝倶樂部がよく出る。一番面白いと思つたのはしみ〲と源氏物語を讀んで見たいといふ婦人があることである。其の婦人は矢張りみすぼらしい工場通ひをして居るけれどどこか頭腦が違つてゐる。別にさう學問をした人では更にないけれども、もう四十の坂を越しながら、段々に自分の家庭といふものが、みじめな深みへはまつて行くのにあいそをつかしてとう〱先年夫と別れて、今では單獨で、自由な生活の道を歩いてゐるといふことであつた。眞實の生活といふものに突き進んで、心に目の醒めた女の聰明さは、更に氣の毒なものであると思つた。

＊＊

源氏の君や紫の上におもひをはする工場の女を珍しく思ひながら、子供の遊び場にある棚の中の書物を見せて貰ふ、『これを一般に公開するとしたならば、どうしても書架といふ樣なものを拵へて分り安く整理しなければならないのですけれど、まだそこ迄は費用も手も屆きかねます。』姆はかう云つて、うづ高く積まれた本の戸棚をあちらこちらに開けて見せた。『何でも好いから貸しておくんなさい』と云つてくる人もあります。そんな人には、其人をよく見て、どんな物が向きさうかどんな物に

七

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

興味を持ち且爲になるかなんてよく考へてから貸して上げます。少しは買ひ足した本もございますが、諸方の同情者方から頂いたので、どうにか間に合つて居ります。朔日十五日は工場の休日なので彼等はその時に、樂しんで貸りた本を讀むのでございます。此仕事の上には隨分人情の美しさを味はせられる事がございます。それはもう二三年間ですが、無名で毎月寄附をじて下さる御婦人がございましたが、どんなお方か私にも知るよしもございません。母校の高等女學校の生徒等は、云ひ合した様に、お菓子の一切でも寄せ集めて必ず持つて來て下さいます。小さな物でも、大勢の力でして下さる事は、大きなものです。』

＊

話を聽きながら、事務所の中から後ろを見ると、壁の所に子供の數だけ小さなメリンスの袋が下つて、それに一々名前がついてゐる。中には一錢の赤いお錢が入つて居る。『それは子供の持つてくる貯金です、』と説明されて見ても、よくまあこんな小さな袋を五十も六十も縫つたものよと、感心の外はない。それは女學校の生徒等が、どんな小さな布でも集めて拵へてくれた眞心の表現であると云はれて、誰も感心しない者はない。人の愛にはぐゝまるゝ子等の群は、明るい日向で、小鳥の様に刎ね廻つてゐる。

（佳　子）

讀者から

▲府下下練馬愛讀者から「此處に都から僅かに一里を隔つるのみですが、ほんとうにまだ維新前の夢から醒めぬ土地で、人々は智識よりも、否命よりも、僅か一圓二圓の金が尊い處です。それもその筈で、終日額に汗して働いて、やう〳〵參八分、米二分の飯に口を糊して居るのです。「あの年寄りももう生ひ先きが長くもあるまいから、米の飯を食べさせてやれ」と申して、白い御飯を食べさせるのが、やつと七十八十になつてからです。かういふ四邊には只毎週手にする御誌のみが、只私に智識と光明とを運んでくれるこの上ない尊い音信でございます。初めから終り迄一字も殘さずに讀んでは、少なからず御導きを受けて居ります。先頃から村の心ある者が、若い衆等の少しでも文字に親しむやうにと、自分達の讀んだ書物や雜誌から有益な文句を書き拔き、各自が書いた「肉筆雜誌」といふのを出して居ります。私は毎週御誌に掲載して下さる「傾聽すべき言葉」をその雜誌の爲めに書かせていたゞいて居ります。一言半句にも讀者を益するやうにと心を碎いて下さる御誌に深くお禮を申します。」

▲沖繩初子様から『眞青に空は晴れたり南國の、海は遠鳴に冬深うして』これでも歌になりませうか。とにかく正月の琉球は緋桃の花も散つてしまつて、波の音も、いとのどかに寄せては返して居ります。便船のある毎に御誌を手にして、都のたよりをなつかしみつゝ拜見いたして居ります」

▲みちのくの一讀者から「新紙で御承知のやう、雪に名高い此の土地に、今年は殊更らに降り積んで、軒を埋められて居ることはもう數十日に及んで居ります。然し雪の世界は皆様の御想像よりも明るく、華でやかなものでございます。ほだの火に燻つた家も、きのふけふ白銀で貼りつめた龍宮のやうに思はれます。圍爐裡の火は赤く燃えて、大きな藥鑵は盛んに湯氣を立てゝ居ります。こゝに身をほか〳〵と暖めながら靜かに書見をして居ると、何の榮華も及ばぬ心地が致します。只吹雪の夕は隙間といふ隙間からすさまじく雪が飄聚して、この儘に人の世も氷つて終ひはせぬかと、わびしさも一しほです。こは到底寒國に生活した者でなければ、味へぬ心細さであらうと思はれます。」

母の工夫した玩具（四）

五色のマッチの軸

新年から御連載の「母の工夫した玩具」の數々を、有益に興深く拜見いたしました。こゝに申上げやうと思ふのは母ではなくて、托兒所の澤山の子供等を預つて居る私が物不自由から考へ出したもので、工夫と申すよりは廢物利用と云つた方が適當かも知れません。

それは臺所で瓦斯をお遣ひになる方は、マッチを一寸摩つては消し、僅かに先きの穗丈けを燃やして、軸はその儘にお殘しになります。この軸をとつて置いて五色に染め、マッチの空箱に入れて置きますと、雨の降る日など、子供はこれを疊の上に並べて人形のお家や門を作ると云つて、喜んで遊びます。

（丸山千代子）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

女學校印象記

（四）

外國語に長くる
双葉高等女學校

四つ谷見附を麹町の方へ過ぎやうとする人は、宏莊なそして美しい建物を見るでせう、その赤煉瓦の塀と緑色に塗つた外壁との對照は、ほんとに美しいはでありませんか。さらに正門の前へ立つて御覽なさい。そこには双葉高等女學校の文字が見られるでせう。もしもそれが春闌の頃であつたなら、滴るやうな葡萄棚の下を、純黑のスカートの裾さばきも輕らかに、金髪の婦人の行き交ふものさへ見られます。そして其足下には、生々とした若草さへ萌えてゐるのです。――生の芽生――さうですそこではその萌え出る若草のやうに、幾多の稚い娘さん達が生々と育て上げられてゐるのです――

・・・＊＊＊

校長さんの名は、マダム、エム、ヘンヌカール――フランスのお方です。この外職員簿にはマダム何々といふやうなお名が幾つとなく記されてあります。美しい葡萄棚の下に見る美しい人達は、このマダム方であつたのでした。隨つてそこは外國語を特色とするので、そしてこれ等の外人教師は、校内に住まはれてゐるところから、語學授業の時間が多いばかりでなく、平素の接觸から知らず識らずの間に普通會話ぐらゐは覺えて了ふのださうです。

御聞きなさい。あの小さな娘さん達の、赤い蕾のやうな唇から洩れる、美しい響の異國語を――

それは時にフランス語であり時に英語でもある。と云ふのは希望によつて英佛語の内一課だけを選ませるからなのです。――Tres Bien! Very Good!

これから、小學校、幼稚園のあることも特色の一つでせう。このやうに統一した課程を踏ませ、教育上の聯絡を取ることは、轉校などゝいふことにも、ともすると惡い影響を受け勝ちな、純一な小さな心を、少しも撓めることなく、自然のまゝに育て上げる爲めなのではないでせうか？

また別科教授といふ便利な設備もあります。ピアノ、オルガン、洋畫、琴、茶の湯、活花、英語個人教授といつたやうに――

・＊＊＊＊＊

なほ一歩深くこの校庭に足を入れた人は、すぐ氣附くことでせう。寄宿舍の裏――この設けもあるのです――湯殿のほとりに、華美な模樣の幾枚かの浴衣が、常に乾してあることを。

が、ありの儘を言へば、それは決して新しいものではなく、いづれも洗ひ晒らしといつた方に近い。――それも道理！極めて卑近なことではありますが、この洗ひ晒らしの浴衣こそ、この學校の表象なのです。

と云ふのは、小さな娘さん達が、寄宿舍のお風呂に入るのに、この浴衣着のまゝ湯に浸かるのです。一寸異樣な感じがするかも知れませんが、他人に肌を見られることをいたく嫌ふ外國の風習に加へて、雜浴の必要上この稀らしい新習慣を造り出したので、慣れては不便もなく、町のお風呂へ行くのは、恥かしいわ」と、小さな娘さん達は言はれます。

その是非はとまれ、これこそ特色中の特色として、他校に見られぬところでせう。

そこで誰しもは、斯う言はずには居られますまい。――『さらば、小さな娘さん達よ！この美しい自然的な教育によつて、あなた方の美しい生命が伸び行くのを感謝あそばせ』と、――

・・＊・＊・

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

青い花の國

(二)

幾美子

お太陽様は丁度沈まうとして、大な岩に黄金のバラ色を投げかけて、そこら一ぱい咲きほこつた野の花を一層美しく見せてゐました。行手々々は藪のやうに生ひ茂つてゐましたが、仙人はちつとも迷子にはなりませんでした。平氣でよぢ登りよぢ登つて行く中に、とうとう山の頂上に達しました。山の上には眞青な甘い香のする葡萄の實が星のやうに生つてました。仙人は蔓がそこら一面からみ擴がつてる畠を踏みわけながら、お城の見える處まで來て立ち止まつて海へ突き出た山の端を見下ろしたり、夕暗に閉されゝ行く大空を見あげたりしてゐました。

黒碧になりきつた空には、今數限りのない星がキラ〳〵と輝いて、あたりには汚ないもの、いやなものは、少しも無く、これでも同じ世界にあの喧嘩好きな人達が住むで居るのかしら

んと、あやぶまれるやう、何の音一つしませんでした。仙人は國彦王を外套から出して、きれいな苔の上にねかせまして、

「まつこと、星が近くにあるわい。さあ若樣、お目をお醒しあつて、あのやうに近くに見える星を御らんなされ。あれは皆なあなた樣の御兄弟なのでムいます。そしてソヨ〳〵と吹いて來まする此風や、あそこに見えまする澤山の木も草も花も皆御兄弟でムいます。さあこれがあなた樣の御住居になるのでムいます。

やがて王子はパッチリと眼を開けて、黒碧い空の星を見て、何やらん笑ふやうでした。そして生れてからまだ間も無いといふに、手を前額にかざしたりしました。

「あゝ御自身、さつぱり何して居られるか御存知あるまいに、あの木や風や星やなにかに御あいさつするやうな御樣子。誠に王らしく、天晴な大將らしいことだ。」

このお城は百年もまるで棄てつぼかしにされてあつたといふことです。高く空に聳えて、それは〳〵壯麗なものでしたけれど、百年此方三代の王樣がみんな此お城を嫌つて、風や木や星の代りに、埃くさい都の眞中で、酒宴ばかりしてゐました。そして可哀相な人民から澤山の御金をとりたてゝ、仕度いほうだいの眞似をして居ました。此お城には天を突くやうな塔や、千人位の兵隊はらくに寢られるやうな廣間が幾つも〳〵ありました。

こんなに大きなお城の中に、小さい國彦王は、仙人先生とそれから同じ位の年寄の下男との三人丈で住むで居りました。仙人もこの下男も、あたりまへの人ならばもうヨボ〳〵してゐる時分ですのに、それは元氣のいゝ、怒ることや、うそをつく心等決して持つて居ない人達でしたので、世の中に誰一人敵はありませんでした。ですから通がゝりで野獸に會ひますと

「をぢさん、今日は、御きげんいかゞですか？」つていふやうな風でした。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

病院に見放された人

局部治療に拘泥して全身營養を忘るゝ弊

斬雲

□死を宣告された肋膜青年

肋膜炎で入院したのが、漸々惡くなつて、遂に院長から『到底駄目だ』と言はれた『どうせ駄目なら、窮屈な病院内に死なするよりは、我家へ運び歸つて、氣樂にさせ、好きなものを食はせて、せめて最後の心盡しにしやう』といふ事になり、危篤の狀態に在りと院長から宣告された其青年を、親達は泪ながらに我家に運び歸つた。『まるで、死骸を連れて歸る様な思ひであつた』といふ。

□全身の營養が第一

處が、我家へ歸つて見ると、親達も本人も大變氣が輕くなつた、随分規則づくめの窮屈な病院に入院して、何となく壓迫を感じて居たのが、もう我家へ歸つて思ふ儘に振舞へると思ふと病人も我が儘が言ひたくなり、病院で禁じられて居た事を何んでも平氣でやつて見る事になり第一に、好きなものを何んでも食つて見たいといふ。親達も『どうせ助からぬものなら、望む儘に任せ』といふので、之を許した。處が、此の肋膜患者は日増に元氣付いて來た、何んでも其の病院では大事を取つて、流動體食物を與へ、夫れも量が少なくて、患者の食慾を滿たさなかつたらしい。そして、夫れも之れも惡いと言つて禁ずるので、病よりは、全身の營養缺乏が一層甚だしくなつたものらしい。

果して其後二ケ月を經過した今日、此の青年は殆ど健康を回復して立つて歩く様になつた。專門醫は人體の疾患部丈け切り離して考へる弊がある、全身の營養を考へなくては病も救はれない。

□死亡した他の一例

扨て、右の肋膜青年と同じ病院の、同じ室に入院して寢臺を隣り合して居た腎臟炎青年があつた。之れも此の肋膜青年と同じ頃に病院から見離されたのであるが、哀しいかな、餘りに衰弱が烈しい爲め、他へ運搬する事が甚だ危險視されたのと親達が十分大事を取つたのとの爲めに、之を我家に運び歸る事を躊躇した、勿論自宅は、郊外遠隔の地であつた。兎角する中、此の腎臟炎青年は死亡した。處が最近其の親達が、彼の肋膜青年が回復した事を聞いて、殘念がつて居る、『自分の子も始終食ひたがつて居たものを、パン一片も禁じられて、今から考へると、確かに全身の營養が不足して斃れたものと思はれる』といふのである。『病院では、尿に含む蛋白ばかり氣にして、蛋白が少ないと醫師も喜んで居た、何ぞ知らん、假りに十の物を食つて五の蛋白が尿に現はれても、他の五丈けは身體の營養になる。然るに、五丈け與へて土の蛋白が現れた處で、全身の營養は一層不足になる、今の醫者はこんな算術を知つて居るだらうか』と其親達は言つて居た。勿論醫者はそんな事を知つて居るだらうが、專門に局して全體を忘れる弊害は最近甚だしい。

□先づ内科の名　に往け

或男は、梅毒根絶の目的で、或る病院へ行つたら、醫者は六百〇六號ばかりに局して本人が神經衰弱の異常な狀態とか、脚が腫れるとか、其他内科全體の種々なる異狀ある事を訴へて、之を全體に亘つて考へて呉れと

十一

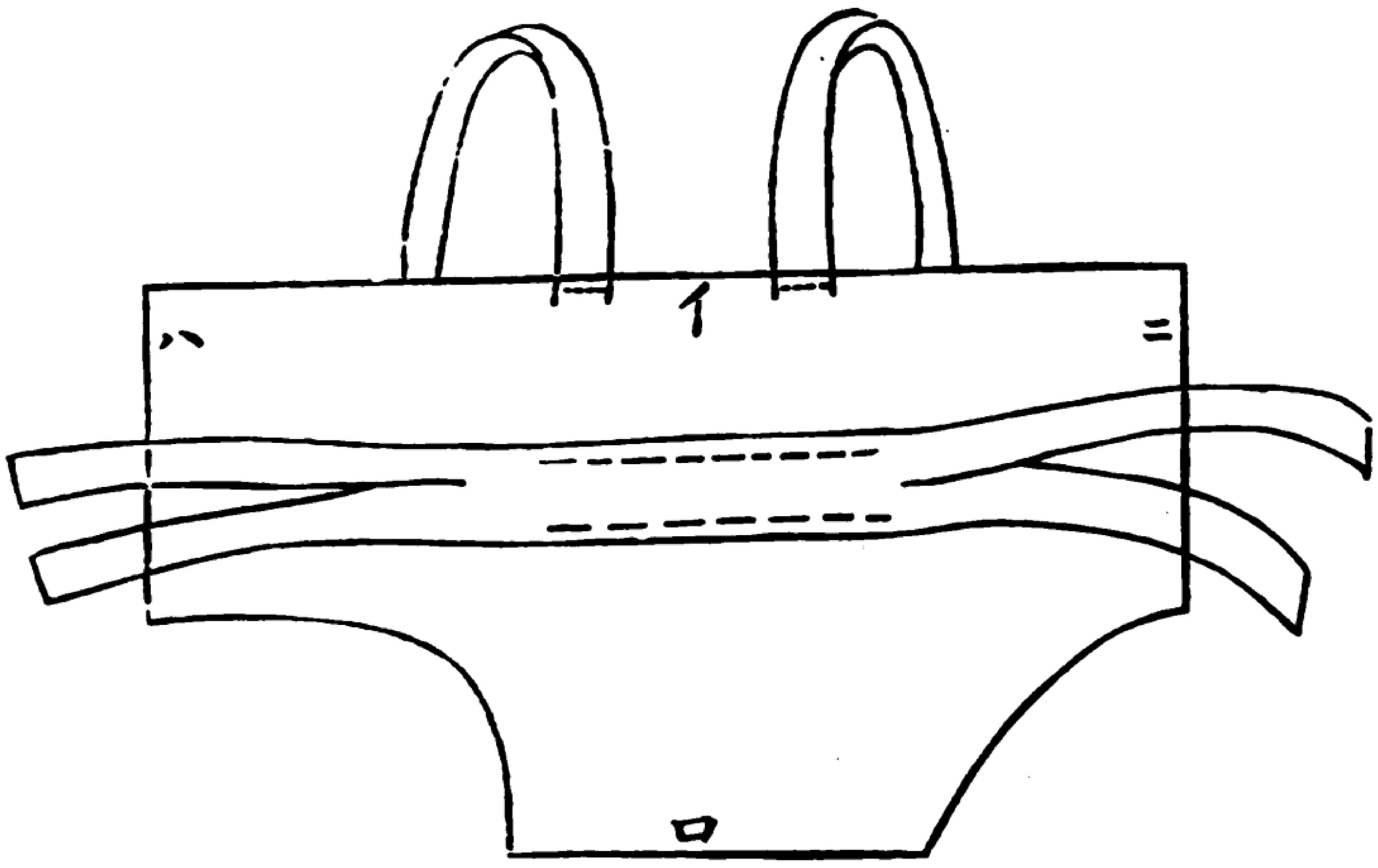
Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

言っても、醫師はそんな事は一向念頭に置かず診察をして呉れない。唯だ注射の一事しか考へない様なのだ。此に於て、其男は不氣味になつて治療を中止する事にした。そして先づ内科至體に就き名醫の確實な診斷を乞ふて其の承認でも得なくては、當節の專門醫に掛るものでないと考へた。私は此の男の意見に贊成する、但し同時に病氣を二ツ三ツ備へた人はどんな風にして醫者にかゝつて好いか考へものだ。一番安全な方法は各人醫學の初歩位は心得て開業醫に一任する事なく、常に其の言を參照して自分自分の生命身體を擁護する事である。悉く書を信ずるは、書なきに如かずといふ通り、悉く醫を信ずれば醫なきに如かず、患者の疑問に對して、主任醫師が之を納得させる丈けの親切な説明を與へて呉れない時は、患者が再考すべき時である。

衛生に叶った

濕布の拵へ方

風邪の流行る昨今の用意



この圖は濕布を後ろから見た格恰です。イから口迄は脊骨から肋骨の附根迄ハニの間は胸圍程に致します。下のくりは胃を冷さぬ爲め、其處に當る部分を取除いたのです。左は右より多くくります。上の二本は肺尖を覆ふ樣適宜の巾に切つて縫ひ付けます。

表は油紙でその次に青梅綿をしき、晒木綿を當て、その中に本フランネルを同じ型に切つて置きます。よくタオルを下に用ふる方もありますが、水を含み過ぎていけません。この本フランを熱のある時には冷水で絞り醫師の指圖した時間毎に代へます。但し晩方の三時から四時迄は體温の下る時ですから、計つた後に冷やさぬと、その爲めに病氣を惡るくする事が、往々あります。熱はなく、單に咳の爲めなら微温湯でひたして、凡そ三時間目毎に代へます。本フランネルは交代の便に二枚切つておきます。後ろの紐は晒木綿を縫ひつけ、兩端は圖のやうに切つておきます。

（女醫藤井かう子）

十二

お化粧問答

問　年始の廻禮に一日外出して居る時なぞは、化粧道具入にはどんなものを入れて參るが宜しうございますか。

（小石川　鶴　子）

答　先づお化粧直しさして天下一品の稱あるクラブ紙白粉一冊さ、お化粧を引立てるクラブ粉白粉一包さ、外に一番よくきくアレ止め兼用のお化粧下クラブ美身クリームの小瓶を御携帶なされば、御外出先でも直にお化粧直しが出來てお化粧の崩れる御心配はございません。尚又羽二重の袋入になつて居るクラブ打粉白粉はお顔直しに至極重寶でございます。

問　洋風のお化粧法と云ふ事が、近頃新聞や雜誌に度々見えますが、どんなお化粧法ですか。お敎へを

（麹　町　久　子）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

小宴の献立

一人前四十錢位にて

川崎正子

献立

椀　三州味噌、芹、つみいれ、すり生姜

皿　さしみ、

小鉢　篠田巻、宮重大根、さより、莢豌豆

口取　御代の春、遠がすみ、日の出かん

□椀　三州味噌三十匁(三錢位)をすらずに、ざく〳〵と俎板の上にて切り、出汁の中で一寸煮たゝせ、味噌漉しで漉しておきます。つみいれは蒲鉾屋にて紅白に出來て居るものを一合(十錢)買ひ、椀に五六個宛入れ、芹二把(四錢)を鹽又は重曹を少し入れて青く茹で、灰汁をぬいておき、根と葉とを互違ひに揃えて絞り、一寸二三分位に切つてつみいれにあしらひます。かうした中に一寸煮たゝせた先の汁を入れて、温い中にすゝめます。

□皿　さしみ一人前十五錢位に。

□小鉢　篠田巻は油揚二枚半(五錢)を熱湯の中に入れて油ぬきし、一枚を四つに切ります。それを二つにはがしておきます。別に推茸十錢程を細かく切り、干瓢二錢斗りを初めに鹽を少し入れてよく〳〵揉んで洗つて茹でたものとを用意し、油揚の表を中にして推茸を少し入れ、くろりとつゝ包んで干瓢で結えます。これを鍋に入れて水で煮込み、砂糖を入れ、醬油を幾度にも注して、程よい味に煮付けます。

宮重大根は十錢斗りの量を、一寸角位の塞の目に切り、出汁と砂糖、又は味淋でよく煮込みます。莢豌豆は一籠(二十錢位)分をとり、重曹を少し入れてざつと茹で、水ですゝぎ、少しの出汁と鹽砂糖で一寸煮たてゝおきます。

さよりは十七八錢斗り買ひ、三枚におろし、出汁と醬油半々の中に一時間程漬けて、蒸籠の中に竹の皮をしき、一寸つまをりにして十分間程蒸します。凡て出來上つたら、小鉢に大根五六個を下に入れ、篠田巻二つ、さより一つに、莢豌豆五六葉をのせて、體裁よく盛りつけます。

□口取　**御代の春**は竹の子(十五錢位)の罐詰、推茸(十錢)若菜(三錢)等を入れますが、凡て前々號に掲載した「鳥やきつけ玉子」と同樣ですから、省きます。

遠かすみは白隱元四合(二十四錢)をぬるま湯の中に入れ、ざつと煮立らました時重曹を一寸入れて煮ますと、皮の部分丈け軟かくなりますから、指で潰いて容易く皮が剝げるやうになつたら、鍋を下ろし、水を注いで米を磨ぐやうに、ざく〳〵と揉みますと、皮が奇麗にむけます。それに水を澤山入れてかき回すと、皮が上の方に浮きますから、これを奇麗によなげて皮を流して終ひます。身の部分は再び鍋に入れ、軟かく煮えた處で布袋に入れて固く絞り、再び鍋の中に入れ、砂糖百二十匁(二十錢)を加へて、適宜に練れた處を俎板の上にひろげて、冷まし、布巾をぬらして少しづゝ茶巾に絞ります。盛る時挽茶を篩に入れ、上から少しふりかけますと、大層奇麗になります。但し少し茶の分量が過ぎると、苦くなりますから注意しなければなりません。

日の出かんは蜜柑大五個(十五錢)を各〻二つに割り、皮を壞さぬやうに中の身をとり出して、汁を絞つて置きます。別に寒天一本の三分の二(一錢五厘斗り)を半日位水に漬け、後ち鍋に入れて煮立たせ、溶けた處へ砂糖四十匁位(六錢五厘斗り)入れて、水嚢で漉して再び火にかけ、中火でかき回しながら煮詰めます。適當の度合を見て鍋を下ろし、蜜柑の絞り汁を少し宛、攪拌しながら混ぜて、前の皮の中に注ぎ込んで置きますと、直ぐ固ります。皮をとると丁度蜜柑の中身の通りの形になつて固まつて出ます。盛りつけには、遠かすみ二つを向ふに、初日の出を右に、御代の春を左に體裁よく致します。

答　洋風化粧と申しますと、つまり煉白粉を使はぬお化粧法なので、先づクラブ洗粉で襟から顏をよく洗ひ、一番よくきくアレ止め兼用の美身料クラブ美身クリームを襟から顏へかけ指先でよく擦込み、乾いた柔かなタオルで夫れを拭取つた後、最新式の美粧用粉白粉として近來上流社會に非常な好評を博して居りまするクラブタルカン、(又はクラブ粉白粉)をポットで襟から順にお顏へと押加減に二重に刷付け、お顏にホンノリと櫻色の健康色を出すクラブ頰紅(又たはクラブ肉色粉白粉)を目の下から頰へかけて薄く刷付けますと高尙で而かも淸新な美しい洋風化粧が出來上ります。クラブタルカンは最新佛國式の美粧用粉白粉で他に類のない逸品でございますので、彼の有名な「お松茶屋」の主人公パーカー夫人の如きも、かゝる進步した化粧品の日本にある事を驚嘆され、流石に日本名物の名に背かないといふので、日々クラブ化粧品のみを愛用れてさ居ります。

十三

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

手紙（四）

渡邊たみ子

八年の昔を振りかへつて十七の娘心を、今の私から、つく／＼と詠めて見ますと、まあ何と云ふ美しさでせう。清らかさでせう。其頃の私には生活上の問題と云ふものはありませんでした、從つてお金と云ふものゝ支配を微塵も感じませんでした。義理とか人情とか云ふものゝ束縛を受けた事のない私はたゞすら／＼と生ひ立つて、自由な天地にのんびりとした心持で活きて居るので御座いました。

世界の何處かには私を嫌ひな人もあつたでせう、憎んで居る者もあつたかも知れません。けれども私は少しもそれを知らないのですから憎まれたり嫌はれたりする事の、どれ丈つらいかと云ふ事は想像した事もなかつたので御座います。故郷の父母は申すまでもなく、私を護り導いて呉れる兄、嫂、學校の先生も、活花や茶の湯の御師匠さん私の上に立つものは皆私を可愛がつて呉れる人ばかしです、私の好きなお友達は皆私を好きでした、少く共私はさう信じて居たのです。かうした周圍の中に圍まれて居る私は、いはゞ温室の花のやうなもので御座いますわね、今から考へて見ますと。

そんなに幸福で居ながら貴方に始めて御目にかゝつた頃――いゝえ再會ですのね――の園は何か知ら求めて居るものがありました、求めると云ふよりは憧がれると云ふ文字を使つた方がふさはしいかも知れません。

果てしもなく高い大空を仰いで昇つて見たいやうな、水晶のやうに清い世界に行きたいやうな、花の香りのみち／＼た霞にでも包まれたいやうな、ぢれつたい、いら／＼とした、それは名つける事の出來ないやうな奇妙な心持で、時には秋水のやうな短刀で胸を刺したらさぞ氣持がいゝだらうと思ふやうな事も御座いました。熱くもなし冷たくもない微温湯に浸つて居るやうな自分の境遇が、たまらない程物足りなく思はれたり、何處かわからないが憧がれて居る世界へ行かれぬ身がしみ／＼と悲しかつたり、今から思へばそれは本當に可笑しいやうな心理狀態でした。

私が教會へ行くやうになつたのは全く此の憧がれからなので御座います。苦しい時の神頼みと云つたやうな動機からではな

十四

く、又理窟から考へて宗教が必要だと悟つたのでもなし、誰かから導かれたと云ふ譯でもなしに自然と湧き起つた感情から神が戀しくて私は教會に行き始めたのです。

或る日曜の說教の中に、處女の尊さと云ふ事が御座いましたどんなお話だつたかよくは覺えて居りませんが、何でも處女の情史は雪のやうに眞白なれと云ふ一言だけ、特に私の胸に殘りました。此の言葉に感動した私は決して情史を作るまいと契つたので御座います。幸にも今まで人を戀ひした事もなし、戀はれた事もないと云ふ事は處女として無上の誇りであると嬉しく思つたのでした。そして此の無上の誇りを持つて居る自分自身がどんなに聖く尊く思はれたでせう。たとへば温い寶玉でも抱いて居るやうな此の肉體までが大切になつて來たので御座います。

かう云ふ人へお嫁に行き、て

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

んな家庭を作つて、子供が生れたら斯う云ふ風に育てやうなど云ふ空想は私の心の何處にも秘められて居ませんでした。地上に住んで居ながら胸に天女を畫いて居た私は、小說よりも詩や歌が好きでした。繪や音樂や、花だの鳥だの、雲だの水だの美しいものは何でもかでも好きでした。

ですから點茶の湯など御稽古するにも・お嫁に往つてから恥をかゝぬ用意になど云はれると天上界から突き落されるやうな侮辱を感ぜずに居られなかつたので御座います。

故郷の母から嫂へ宛てた手紙に「お園も來年は女學校を卒業して、御嫁にゆかねばならぬ身だから、今の内に家事をよく仕込んで貰ひたい、此の夏休みに歸つた時、梅干の漬け方はよく敎へたが、澤庵はまだ敎へてない故、秋にはみつしりとよく飲み込むやうに覺えさせて呉れ、學校で敎へるお料理はお金と時間がかゝつて毎日の役には立たぬと云ふ話をよく聞く故、お園はすぐに世帯を持つても困らないやうに、お味噌汁の立て方、お惣菜のこさへ方を敎へるやうに」など書いてあるのを見ると、何だか滑稽で吹き出したい位に・又腹立たしいやうにも感ずるのでした。何故と云へば女が凡ての事を學ぶのは、皆お嫁に行く準備の爲だけのやうなものですからね。それでも眞面目に姑の命を奉じて・何かと家事を敎へて呉れる嫂に就いて、漬菜洗ひにひゞ切らしたり、一生懸命お臺所の手傳をしたものです。

二度目に貴方が御見えになつた時、私は恰度日當りのい、中玄關の前で、襷掛けで張物をして居ました。貴方は呆氣に取られたやうに默つて眺めて御出でゝした。姉さん被りの手拭を取つてお辭儀すると

「貴女でもこんな事するんですか」

と仰言いました。

「えゝ、女ですもの」

かうお答へしながら、私は何故女ですものと云はねばならないかと、ふと考へたのでした。

「成程」

さも感心したやうに大きく頷いたお顏を見ると、急に昔の精ちやんにしたやうに、走り寄つて肩にぶらさがりたいやうな氣がしたのです、でもぢつと控へました。

女だから」

と云ふ觀念が、私の凡ての行動の自由を障げたのです。

私は冷かに、禮儀正しく靜に貴方を家の中に御案内して茶の間へ御通し申しました。

「おや、精さん、いらつしやい」

長火鉢の前で縫物をして居た嫂は斯う云つてニッコリ笑ひました。それこそ本當に初對面であつた此の前の時からして、嫂は百年も前から知つてゝも居るやうな態度を見せるので御座いました。兄の宅では茶の間へお通しするお客樣に、親戚でもなければ餘程親しい方の外にはゆるされてないのです。よく出入する同國の學生達など、大方は應接間限りで御免蒙るのが普通の取扱ひですのに、貴方に對しては全く私さへ不思議に思ふ位・破格な待遇で御座いました。無論私が御通ししたのは嫂の意によるので御座います。

「精さん、これから精さんて御呼びしませうね、園子さんが口癖のやうに精ちやん〳〵と云ふもんだから、私まで精ちやんは小さい時から知つてるやうな氣持がするんですよ。だけど、立派な大學生をつかまへてまさか精ちやんとも呼ばれやしないし、改まつて香村さんとも云ひ度かないんですもの、ねえ園子さん。」

「さうですねえ、精さん それでよくつて?」

貴方のお顏を覗くと、

「えゝ・結構です、何卒左樣呼んで下さい、姉さん」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「姉さんはよかつたヮ、」
嫂は滿足さうに笑ひました。

こんな事、貴方もよくおぼえていらつしやるでせう、それ共男の方は潔白していらつしやるから、こんな下らない事お忘れになつたかも知れませんのね。よく良人が申すんで御座いますよ、

「女つて云ふものは、下らない事をよく記憶して居るもんだな、俺等は役にも立たないやうな小さな事は、右から左へとさつさと忘れて仕舞んだ。つまり女は用事がないものだから、馬鹿々々しいやうな事が心の大部分を占領して居るんだらう。お前等は過去の世界に活きて居るし、俺等は將來に向つて生きて行くのだ」

つて。軍人、殊に海軍の人は物事に執着のない、淡泊なさら〳〵とした性格の方が多いやうで御座います。良人など如何にも海軍士官の典型に當はまつた人で御座いますから、昔話しなどする張合は少しもないのですよ。又私の昔の事は何も知らないのですから、興味もないでせう、私と云ふものゝ存在を判然と認める事の出來たのは、結婚の儀式を擧げる以前、たつた一度見合をした時に始まつた事ですもの。

一月の小説

茅野雅子

たゞでさへ正月には方々の雜誌が競つて小説を滿載する傾向があるので、家事の暇をぬすむで讀書する私には、それ等の作品に一々眼を通すと云ふことは隨分困難のことです。その上、暮れに姑の亡くなつてから、頻〳〵として種々の出來ことが身邊に起つて來たので、今日までにやつと眼を通すことの出來たものは「中央公論」「黑潮」「早稻田文學」「文章世界」「新潮」位のもので、尙ほ是非讀みたいと思つてゐる「帝國文學」「新小說」「太陽」等を見る暇を得ないでゐるのを遺憾に思つてゐます。

永井荷風さんや、小山內薰さん等の作品を私は久し振りに中央公論で讀むで、之等の作家の持つてゐる態度と、有島さん兄弟や志賀さん等の人生に對する態度との著しい相違對照を今更らしく感じたのでした。未完ものであつても荷風さんの「おかめ笹」に覗れる作家の對人生の態度は著しく冷眼であり皮肉であり側面的であるやうに思はれます。小山內さんの「英一蝶」も亦世間を正面に、溫い心で眺めてゐるといふよりは、凡てのものを冷罵嘲笑してせめてもの痛快を買つてゐる主人公の朝湖

十六

（即ち英一蝶）に充分の同感を示してゐられるものゝやうに思はずにはゐられませんでした。考へて見ると時代や性格を巧に書き別けたり、事件を如實に描寫したりする點では正宗白鳥さんや德田秋聲さん等の手腕は矢張り流石にと思はせる節が多いやうでした「穴」の主人公が肺病の末、基督敎の信仰に縋つたりしながらも尙ほ良人に對する嫉妬に苦しむ描寫や「信不信」が短かい中に佐吉おふくの性格を充分に讀者に呑込ませる手法等は實に老練のものであると思ひました。併しそれ以上の強い印象は何も殘りませんでした。序ながら、白鳥さんの「文章世界」に書かれた「女嫌ひ」よりは、此「信不信」の方が面白く讀まれたのでした。中村星湖さんの「乞食の群」（黑潮）等も性格の描寫に捨て難い所のあるのを認められました。

同じ「黑潮」に出た里見弴さんの「彼の女と青年」は種々の

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

青年に取りまかれてゐる一人の女性を中心にしてゐます。此の作が同誌の發賣禁止の原因であるとは私には何うしても受取ることは出來ません。それ位あゝした材料をも上品に又注意して取扱つてあつたやうに思ひます。併し此作者は兄弟の中で一番小說らしい小說を書く人のやうに思はれます。私の讀むでゐる丈けの狹い範圍では武郎さんの作が、一番眞面目に、一番率直に作者その人の人格に觸れさせる或るものをもつてゐるやうに感じられます。それにつけても「迷路」の續編と云はれる新小說誌上の「曉闇」を未だ讀まないので、それに對する感想を茲に書くことの出來ないのが殘念です。併し「新潮」に載せられた「小さきものへ」といふ小說といふよりは寧ろ感想文ともいふ可き作はほんたうに私の心を感動させました。親の子に對する愛といふものが、此作にあるやうな點まで進まなくてはならない。親は子を愛して、子を其ために束縛してはならない。子は親の愛に育つて親を乘り越して進まなければならぬ。さうしてこそ始めて親も子も人世の路を眞實に進んでゆくと云ふことが出來るのではあるまいか。此作は本當に理解あり、思慮あり、慈愛に溢れた新時代の親心の尊い記錄であるといつても過褒ではあるまいと思ひます。

同じ作者の「中央公論」の「動かぬ時計」も、作家の高い見識を覗ふに足りるやうなものではありましたが「小さきものへ」程に人の心に迫つて來るものを持つてゐませんでした。「小さきものへ」と同じやうに、作家の感想文の一種とも考へられる里見弴さんの「叱」るも夫婦の愛といふことに就いて人を考へさせるべき筈のものでありました。併し此作の上で見ると主人公の愛情に對する解釋は餘程得手勝手なものになつてゐるやうに思はれます。眞實の愛が自己を捨てるにあることを力說してゐる此主人公も、自分の妻に對してのみ自己を捨てることを要求して、自分の自己はかたく守つてゐるやうに見えます。さうした勝手な要求をして妻を叱る夫は見やうによつては寧ろ滑稽にもまた氣の毒にもなります。何處までも皮肉な作家が、さうした悲喜劇の心持を讀者に味はせやうと云ふのが、最初からの計畫であつたのかも知れませぬ。

芥川さんの「首が落ちた話」は豫期してゐた丈けに却つて失望が大きかつたのでした。私は此人の作を見る度びに、此の落つきのある筆致の背後に、最う一層の深味のある內容を盛つたらと、生意氣な考へを出さずにはゐられません。廣津和郞さんの「師崎行き」は父親に逢つてからの一節、父と濱邊を步き作ら、告白を聞いて貰ふところ等何でもない會話の中に、よく父子の愛の溢れてゐるのが認められて嬉しいのでした。

野上八重子さんの「靈魂の赤ん坊」は大層面白い、力の籠つたものでしたが、戯曲ですから此處には省きませう。中條百合子さんの「地は饒なり」は少年期から青年期に入るまでの女性の精神の發達史とも云ふ可きものであり、その發達の徑路と歸結にも大きな無理はないやうに思ふものゝ、尙ほ詳細には云ひたいことも少くはないのです。併しそれは他日に讓ることゝして、此一篇は小說として餘り骨格ばかりで、斯うした新らしい樣式の試としては充分に成功してゐるものとは思はれません。でも此の年少の作家が常に精進して怠らない勇猛心には感奮の外はありませぬ。

十七

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

時事

□東宮妃冊立御治定

畏き邊にては今回第十五師團長久邇中將宮邦彦王殿下第一王女良子殿下を、東宮裕仁親王殿下の御妃に御冊立の事に御內定相成りました。久邇中將宮同妃兩殿下には右につき十六日急遽御上京、十八日午後二時參內、兩陛下に御對顔の上御內約の御禮を言上遊ばされました。良子殿下は明治三十六年三月六日の御誕生にて、本年の同月同日を以て滿十五歳に達せられ、目下學習院女學部第三年御在學中でありますが、御容姿の優れさせ給へるは申す迄もなく、御學徳共に秀で給ひ、御體格に至つては最も圓滿に御發達遊ばさるゝ由です。公然の御發表は四月廿九日東宮殿下滿十七歳の御誕辰當日に行はるべしとの御事です。

久邇宮良子女王殿下

□歌御會始めは十八日宮中鳳凰の間に於て行はせられ、「海邊松」の御製、御歌、皇族方御歌を初め、左の預選歌の御前披講が行はれました。

御製

潮風のからきにたへて枝ふりのみなたくましき磯の松原

皇后宮御歌

いそちかき山よりみればめもはるに松てそつゞけ浦の眞砂路

△選歌

官幣中社鎌倉宮宮司　正七位　矢野豁上

あたなみのよせしはさほき昔にてうらしつかなりちよの松原

福岡縣平民　勳七等　中村保上

よろつよのこゑをつたへてうら〱の松よりまつに風ふきわたる

熊本縣宮原明神社社掌　上野莞雄上

たゝらはま老木の松はかみかぜのふきしよゝりの緑なるらむ

福岡縣平民　上田三郎上

おきつなみよするありそに一本の老松たてりますらをのここ

愛知縣平民　青木穰子上

いそ山のまつきはやかにあらはれて波こそもゆれのほる朝日に

岐阜縣平民　田島壯二郎上

食國のちよのまもりさしほかせにきほひてたてりいその松原

福島縣平民　遠藤二郎上

よせくるはさゝよの波かいつみてもありその松のおもかはりせぬ

●皇后宮御仁慈　皇后陛下には兼れて貧民救恤に大御心を注がせらるゝ事は申すも長き極みでありますが、頃日大森皇后宮大夫を東京市營の特殊小學校に御差遣の上、貧民兒童の就學狀況を視察伏奏すべき旨の、御沙汰がありました。太夫は御旨を畏しこみ廿一日午後二時、淺草區玉姬小學校に赴いて、兒童の授業及び作業狀況並に入浴散髮の模樣迄、具さに參觀し、更に下谷萬年尋常小學校をも參觀の上、委曲伏奏されました。兩校兒童へ對しては畏くも御菓子料一封宛を賜りました。

●議會開催　第四十議會は二十三日より開催の事に決し、政友憲政、國民の三政黨は二十日何れも大會を開いて、陣容を整へました。國事多端の今議會は、定めし花々しい論戰の數々が行はれませうと期待されます。

●米國渡航禁止　昨年十二月一日より米國新移民法に據り、同國に渡航する者は宣言書を要し、尚渡米者は旅券の裏面に領事自身署名するとゝなつて居りましたが、横濱米國領事館では、十六日から突然旅券査證を停止することになりました。これが永久に續けば、本邦人の渡米は全く禁止さるゝ譯で、國際間の大問題であります。停止の理由も不明である上に、疑はしい點があるので、横濱總領事館より米政府に問ひ合せの電報を發したと申します。

●坂元中尉の慘死　飛行界に其の人ありと知られたる中尉坂本守吉氏(卅二)は、十七日京濱間野外飛行の第二日目を開始せんとするに先ち、新造の制式第二號機の高度並に速力試驗を行はんとして、九時二十五分同機に搭乘し、場の南隅より北方に向つて離陸せるも、發動機の調節不調の爲、牽引力不足して、機は上昇せず、離陸後五分間にして、約四五十米突の低空から、眞逆樣に墜落し、機體全部を粉碎し、中尉も亦悲慘なる即死を遂げました。さらでも寂寥の我が航空界にとつては大なる損失であります。中尉は特旨を以て位一級を進められ、正七位、勳六等に敍せられ、單光旭日章を授けられました。所澤町有樂町の中尉の自宅には夫人ツネ子(三十)長女ユキ子(八)次女マス子(六)長男守男(二)の四人があります。遺骸は廿日研究會出棺火葬に附し、一旦九段偕行社に移して、二十二日青山齋場で、陸軍葬儀として執行されました。

●兩飛行將校の歸朝　一年前佛國に向つて飛行術研究の爲所澤航空隊より派遣され、危險を冒して彼の地に渡航せる眞壁、長尾兩中尉は、十五日天洋丸にて歸朝しました。兩中尉は佛國のニユポール飛行學校に入學し、往々戰場に機を操縱して偵察をも行つたとの事です。今後我が國の飛行界の革新は兩氏を須つ事多きことであります。

●カイヨー氏の投獄　千九百十四年佛國前首相カイヨー氏の人物を論難攻る廉を以てフイガロ新聞記者カルメツト氏をカイヨー夫人が銃殺したることはなほ人々の記憶に新らたな處でありますが今回氏が賣國奴ボロー、パシャの疑獄に關聯し、叛逆罪としての證據充分に擧りたるを以て、レサイユ監獄に投ぜられました。

●露廢帝の離婚　ニコライ廢帝は其

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

皇后との離婚をレーニン政府に願ひ出て許可を得ましたが、近く昔の戀人たりし露國一流の女優マチルダ、クシエンスカ孃と結婚さるべしと噂されて居ります。

●保井女史帝大の囑託となる

大阪の富豪野村氏が遺傳學講座新設の爲、金六萬圓を帝國大學に寄附されましたが、右講座を擔當する藤井健次郎博士の下に今回東京女子高等師範學校助教授保井この子女史（三九）が教務の傍ら囑託となつて、植物の細胞並に解剖の研究に從事することゝなりました。女子の大學囑託は女史を以て嚆矢と致します。女史は三十五年女高師の理科を卒業し、引續き研究科を出で、其儘止つて母校の植物教師をして居りましたが、其の後米國に留學して、ハーバート大學のゼフレー教授に就て研究、一昨年歸朝されました。最近「柿の一研究」をシカゴ大學發行の植物報告に發表し、「名古屋附近にて發見されし亞炭中の化石」をオックスホード大學の植物年報に發表された篤學の女學者です

●小寺幸子女史の歸朝 大正四年農商務省より造花研究の爲、佛國に給費派遣されたる小寺幸子女史はロンドンを經て、近く歸朝の筈です。我が造花界に一進歩を見ることでありませう。

●京都畫家の新運動 文展審査に對し、京都青年畫家の反抗運動は愈よ事實となりて現はれ、土田麥僊、小野竹橋、榊原紫峰、村上華嶽氏等發起して、「國畫創作協會」の新團體を組織し、廿日發會式を擧げました。なほ同會は秋季東京京都にて展覽會を催し、會員以外の出品をも募集し、右の監査には會員五氏以外竹内栖鳳氏等も立合ふ由です。

●宮原中將逝く 宮原水管式汽鑵の發明者として有名なる海軍機關中將貴族院議員工學博士男爵宮原二郎氏はインフルエンザに腸胃病を併發して、十五日府下入新井の自宅に逝去、享年六十一、危篤の趣天聽に達し、位一級を進められ、從三位に叙せられました。葬儀は十九日青山齋場で佛式にて執行されました。

●菊地芳文畫伯逝く 久しく京都衣笠村の自邸に腸潰瘍の爲、療養中なりし文展審査員菊地芳文畫伯は十八日遂に逝去されました。享年五十六。氏は花鳥を描くに巧みで、數年前赤坂離宮の御杉戸を揮毫し、目下宮中御杉戸に白孔雀の圖を揮毫中でありましたっ氏は男子なく門下の秀才契月氏を養つて嗣子となし娘を配して後繼者として居ります。

●大相撲千秋樂 春場所の大相撲は十日間晴天打續き、滿都の人氣を一所に集めて、廿日愈よ千秋樂を告げました。優勝旗は東方に歸し、栃木山は横綱に、千葉ヶ崎、九州山は大關に榮進しました。

編輯室より

▲前號は印刷の手違ひから、一部のお送が二日程遲延いたしました。此段深くおわびを申し上げます。遠方からわざ〳〵お訪れ下さる思ひがけない方々は、多くは週毎の本誌を手にして、絶えず來訪を思ひつゞけて居て下すつたさうで、嬉しく有難く思ひながらも寸時を爭ふ忙しさに在り勝ちな編者は、心ゆくまで語り合ふ充分の暇のないのを、この上なく遺憾に思ひます。然し木曜ならば一番週中では、のどかに暮らせる日でございます。お覺えおき下されば幸ひです。

人事相談所

□本所は婦人週報社の附屬事業として、世の煩悶に惱める男女に同情し、精神上、生活上、其他有ゆる相談に應じ、最も善き解決を與へます。

□本所は絶對秘密の下に、結婚調査、人物調査、財産調査、男女學生品行調査、裁判上の證據調査等の御依頼に應じ、親切と誠實を以て其の任に當ります、但しこれは依頼者が至當と思はれる程の低廉な調査料を申受けます。

□本所に御相談なされたい方は、書面にて申越されるか、若しくは直接面會に來て下さい、面會時間は日曜水曜を除くの外午後零時より、午後四時迄です。

東京牛込區市ヶ谷田町二丁目十七番地
婦人週報社内（電話番町四五六六番）
人事相談所

婦人週報（毎週金曜發行）

定價表
△壹部金五錢（郵税共）
△一ヶ月（四部又は五部）金二十錢
△三ヶ月（十三部）金六十錢
△半年（廿六部）金壹圓拾錢
△一年金貳圓廿錢
△外國一年分金參圓

廣告料
△特等（表紙の二、四）金參拾圓
△壹等（表紙の三、白紙前付）金廿五圓
△貳等（色紙の表側）金廿貳圓
△參等（色紙の内側）金貳拾圓

注意
▲御註文は一切前金の事▲郵券代用は必ず一割増の事▲送金の爲替名宛は東京市牛込區市ヶ谷田町二丁目十七番地婦人週報社▲振替口座は東京三一六六〇番▲雜誌發送を以て領收書に代ふ

編輯兼發行 印刷人 小橋三四子
東京市京橋區銀座四丁目一番地
印刷所 福音印刷株式會社
東京市牛込區市ヶ谷田町二丁目十七番地
發行所 婦人週報社
振替口座東京三一六六〇番
電話番町四五六六番

診察時間 自午後一時 至同 九時
細谷ひで子
齒科醫院
四谷區麹町十一丁目十二番地
細谷ひで子

常食に代用する
植物ミルク 六回分 拾貳錢 三拾回分 五拾錢
婦人週報社取次

弊店の特色
御召 織式 縞染
△古手物モ新規同樣ニ相成候
△出來期日ハ最モ正確且ツ迅速ヲ旨ト致シ候
△御註文ノ際ハ御一報次第早速店員御伺御用命ニ應ズベク候
中澁谷六百十八番地
（玉川電車通西郷邸前）
百足屋染物店
平田孫太郎

十九

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

診察毎朝及毎夕 但祭日及日曜の他
院長診察月木金午前及木午後六時
林、峰間兩副長は目下當院に在勤
東京麹町區三番町卅番地(市ヶ谷見附内)
電番 六二番 五一六番
院長 醫學博士 高田畊安
東洋内科醫院

電話ちがさき二番
南湖院
神奈川縣茅ヶ崎海濱(従停車場半里)
河野、高橋兩副長は目下當院に在勤
院長診察土曜日午後、入院診後應需
診察毎朝 但祭日及日曜及土曜の他

大黒天印 赤 白
宮崎葡萄液
宮崎葡萄液ハ「アルコール」分ヲ含マズ最モ滋養ニ富ミ上戸ニヨク下戸ニモヨシ御婦人御子供衆ニモヨク頗ルオモシロキ理想的好飲料
宮内省御用達
大小數種化粧箱
商品切手調進仕候
東京市日本橋區通旅籠町
發賣元 甲斐產商店
電話浪花八七〇、八七一

英語生徒募集
高等女學校卒業生に適當の各級あり又年長者にして英語初歩より學ばんとする者にも懇切に教授す火金曜午後一時より二時迄特別會話の組あり月謝金二圓(ピアノ個人教授の需めに應ず)
英語專門私立 櫻井女塾
本郷區彌生町三番地(電話小石川二六九一番)

耳鼻咽喉科專門
大野醫院
院長 耳鼻咽喉科 大野喜伊次
(入院隨時)
東京京橋區南鍛冶町廿七
電話京橋一〇三五

◎產婦人科◎小兒科
宅診午前 往診午後
病室、產室ノ設アリ入院ノ需メニ應ズ
院長 女醫 吉岡彌生
東京至誠病院
東京市麹町區飯田町四丁目卅一番地
電話番町 二二五七

產科、婦人科、小兒科
女醫 井出茂代
東京府内藤新宿番衆町卅一番地
電話番町三六七七番

松下皮膚科醫院
○診察、午前、夜間
○京橋南八丁堀櫻橋際
(電京 二二三一番)

家庭衛生講習會
一、目的 家庭に必要なる衛生及衛生マッサージを教授す。
一、場所 赤坂區新町三丁目四十六番地婦人矯風會本部内。
一、期間 自毎月十六日至翌月十五日月水金午時二時より四時迄。
一、講習科 金十圓也前納の事。
一、人員 十名を以て定員とす。
一、證書 講習修了者には修了證書を交付す。
一、特典 講習修了者は會員として隨意に傍聽又は研究する事を得。
一、主催 婦人矯風會本部。
一、講習主任 醫師藤井孝。
右御希望の方は至急赤坂區新町三丁目四十六番地婦人矯風會本部(電話芝一七五三)に申込まれたし。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

西洋料理講習會

時日　自二月一日至四月五日　毎週金曜日一回　自午前九時十五分至正午十二時

ディナー（晩餐）調理法—十回完了

スープ二種、肉及野菜數種、魚及鳥類、サラダ、デザート、紅茶、コヒー等毎週順を追うて講習し、最終日には實習せし品目を悉く調理して、一つの晩餐會を開く。毎回調理法と共に、西洋食禮法等をも教授す。本會にては講習生各自實習することを得る便利なる設備あり。

申込期日　一月廿九日迄

講習費及實費　金拾圓　初日御拂込みありたし

神田北神保町十四、電本五九八

東京基督教女子青年會

齒科診察

府下千駄ケ谷町五百六十三番地

齒科醫學士　大久保透

シンガー裁縫院　生徒募集

●和洋服刺繍（東京有樂町一ノ五）

●ミシン專修　●毎月五日迄入學

一家打連れ立て

膚を美しくする

ホーカー液

冬の肌アレを防ぐ化粧料

色黒き人、血色悪き方は簡易美顔術として一回三十秒の時間を利用して日課的に用ひられよ。

ホーカー白粉本舗

東京和泉橋　堀越嘉太郎商店

振替東京一五六

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

御料

御園白粉

御園白粉及御園化粧品は畏くも御料に召させ給ふ本邦唯一完全優良なる化粧料にして最新の科學に依り原料と芳香を精選し皮膚の衛生と美容の目的に適ふ配合を以てし冗費を省き包裝を飾らず實質を本位とする化粧品なり。

御園白粉は純無鉛製にして殺菌消毒を施したれば安全なるは勿論永久の保存と氣候の變遷に堪へ効能に變化なく濃淡自在乘りよく伸びよく斑點を生ぜず生れ乍らの美さを現す事化粧品界に其比を見ざる白粉中の模範品なり。

御園白粉
御園の月
御園の花
御園撫子
御園紙白粉
御園四季の花
御園の露
御園の蕾
御園クレーム
御園香精
御園の橘
御園香油
御園齒磨
御園ルチゲン

本舗 伊東胡蝶園 ● 發賣元 丸見屋商店

發行所 東京市牛込區市ヶ谷田町二丁目十七番地 婦人週報社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA